

2017 年度統計関連学会連合第 3 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2017 年 12 月 27 日（水）13:00 - 14:50

場 所：東京医科歯科大学 M&D タワー18F 小会議室 1

出席者：

【学会連合理事】

応用統計学会	永田 靖
日本計算機統計学会	大石雅彦
日本計量生物学会	大橋靖雄
日本行動計量学会	
日本統計学会	赤平昌文，西郷 浩
日本分類学会	栗原考次（理事長），山本義郎

【連合大会実行委員会】 酒折文武（2018，実行委員長代理）

【連合大会運営委員会】 川崎能典（2017）

【連合大会プログラム委員会】 谷崎久志（2017），汪 金芳（2018）

【JJSD】 青嶋 誠，岩崎 学

幹事 石岡文生，酒折文武，富田 誠

組織委員会・議案

1. 2017 年度連合大会報告及び決算

- (1) 川崎運営委員長（2017 年度）より，会計報告・決算報告が提出され，審議の結果，原案の通り承認された。また，会計および運営に関して以下の通り報告及び議論があった。
- ・ 大会報告を 2017 年 10 月 6 日に大会 web ページに公開した。最終的な参加人数は，チュートリアルセッションが 170 人，市民講演会が 205 人，本大会が 836 人，懇親会が 239 人であった。
 - ・ 会場の南山大学は会場費が無料だったこともあり，会員を中心に参加費を昨年より値下げしたが，それでもなお余裕があり，前年度以上に繰越金が出た。
 - ・ web システム，資料・ポスター作製費，人件費にかかった支出は，ほぼ前年通りであった。
 - ・ 懇親会に関する支出は前年度よりも 20 万円ほど減額しているが，これは懇親会の会場費によるものである。
 - ・ 会議費・委員旅費補助に関する支出については，前年度より 20 万円ほど増額となっている。これはプログラム委員会・運営委員会の会議に係る出張費を積極的に申請してもらうよう伝えていたためと思われる。また，組織委員会に係る出張費については，今年度は請求が行われなかったが，次年度以降も補助することは問題無いことを確認した。
 - ・ 支出のサーバー使用料について，予算案では 10 万円が計上されているが，決算では 0 円となっている。これは，連合の web サーバーを連合大会の web ページでも使用していることから，2015 年度より連合大会会計から連合理事会に対しサーバー使用料として毎年 10 万円支払うことになっていた

が、今年度は連合理事会から請求がなかったこともあり、支払がされなかったためである。そのため、2018年度に2017年度分と合わせて2年分(20万円)を支払う事とする。

- ・ 桜井会計監査担当からは、次の点について指摘があった。
 - サーバー使用料に関して、連合大会の会計は大会ごとに独立に取りまとめるのが原則。今後、連合理事長は毎年運営委員長にこの費用を請求するようにしてもらいたい。
 - 2015年5月に連合大会の口座から300万円を連合理事会の口座に移動し、これを連合大会運営準備金という名目で管理している。2016年度以降は、連合大会会計を上記の2つの口座に分けて管理している旨を、予算案・会計報告・決算報告に記載することとなっているが、2017年度予算案ではこの記載が漏れていた。今後は記載漏れの無いよう留意してもらいたい。
- ・ 研究報告を行う様子が動画サイトで(おそらく本人には無断で)アップロードされていた。次年度以降は、会場での撮影や録画は全面禁止である旨をどこかに記載しておくことを確認した。
- ・ 海外の団体とのジョイントセッションでは、そこでの講演者しかセッションに参加しておらず、日本人はほとんど参加していなかった。ジョイントセッションを盛り上げるような対策が必要ではないか。

(2) 谷崎プログラム委員長(2017年度)より、以下の報告があった。

- ・ コンペティションセッションでの報告は毎年2~3名ずつ増えている。今年度は34名であったが、プログラム編成や審査員の調整等の問題から、すでに限界である。コンペティションは報告時間を短くするなどの対策が必要に思われる。
- ・ 英語セッションの申し込みについて、webでの登録の際に、氏名やタイトルを日本語のみで登録している講演者がいたため、個別に問い合わせる必要が生じた。webでの登録システムのフォーマットについて検討の必要がある。
- ・ 英語版のプログラムをプログラム委員長が作成した。次年度は業者に委託することを検討してもよいのではないか。

(3) 白石実行委員長(2017年度)は欠席のため、代理で栗原理事長より、以下の報告があった。

- ・ A会場には2つのスクリーンが用意されていたが、左側スクリーン用のプロジェクターが投影できなくなるトラブルが発生した。右のスクリーンの方に移動してもらう旨のアナウンスを行うなどの対応を行った。
- ・ セッションが始まって座長が来なかったのが2件と、始まりの数分前に座長が到着したのが1件あり、実行委員の方で対応した。次年度以降に同様のトラブルが発生した場合に、実行委員かプログラム委員のどちらが対応するか予め検討しておくとういと思われる。
→ 谷崎プログラム委員長より、プログラム委員はコンペティションの審査で動けないため、実行委員の方で対応頂くのがよいのではないかと意見が出された。

2. 2018年度連合大会各副委員長及び委員について

- ・ 栗原理事長より、2018年度の運営副委員長(2019年度運営委員長)に中川重和氏(岡山理科大学)、

プログラム副委員長（2019年度プログラム委員長）に桜井裕仁氏（大学入試センター）に担当頂きたい旨の提案があり、承認された。

・ 2018年度運営委員会

委員長：笛田 薫（滋賀大学）

副委員長：中川重和（岡山理科大学）

応用統計学会：佃 康司（東京大学）

日本計算機統計学会：阿部貴行（慶應義塾大学），藤野友和（福岡女子大学）

日本計量生物学会：上村鋼平（東京大学），柏原康佑（東京大学）

日本行動計量学会：谷岡健資（和歌山県立医科大学），登藤直弥（筑波大学）

日本統計学会：荒木万寿夫（青山学院大学），川野秀一（電気通信大学）

日本分類学会：上野隆彦（聖マリアンナ医科大学）

・ 2018年度プログラム委員会

委員長：汪 金芳（千葉大学）

副委員長：桜井裕仁（大学入試センター）

応用統計学会：南美穂子（慶應義塾大学），星野崇宏（慶應義塾大学）

日本計算機統計学会：田澤 司（(株)パーキンエルマージャパン），松井秀俊（滋賀大学）

日本計量生物学会：安藤宗司（東京理科大学），山本英晴（中外製薬(株)）

日本行動計量学会：大橋洸太郎（立教大学），井本智明（静岡県立大学）

日本統計学会：小巻泰之（日本大学），寺田吉壱（大阪大学）

日本分類学会：飯塚誠也（岡山大学）

- ・ 上記委員に加え、委員長推薦による委員の追加については基本的には承認することとし、各委員長から理事長に伝え、理事長から組織委員会に報告することを確認した。
- ・ 実行委員会については、組織委員会の承認は必要としないことを確認した。

3. 2018年度連合大会運営方針について

- ・ 酒折実行委員長代理より、2018年度連合大会の日程について、9月9日（日）にチュートリアル・市民講演、9月10日（月）～9月13日（木）に本大会とし、懇親会は12日（水）との説明があった。
- ・ 協賛団体・後援団体・海外とのジョイントセッション等との連携といった、統計6学会以外の学会・団体に属する参加者の参加費や参加資格について、以下の様な議論があり、引き続き検討することとなった。
 - 今年度は、前年度から日本品質管理学会が協賛することが決まっていた。協賛団体会員の扱いにおける基本的な方針は、6学会会員と一般参加者との中間とした。
 - 6学会は連合への負担も多いため、6学会以外の団体と6学会会員の参加費を同額にするのは問題がある。今年度は、協賛団体会員に対しては、チュートリアルセッションは6学会会員価格と同額と

し、本大会参加費については6学会会員より1,000円増額した。

→ 海外とのジョイントセッションの参加者が、自身のセッション以外のセッションに参加することについて認めるべきか、冊子体についてはどうするか、等の検討が必要。

→ 過去に海外の研究者から連合大会での発表希望があったが、共著者に6学会会員がいなかったことから、講演が見送られた。しかしながら、海外からのオープンエントリーについては、運営に関して大幅に変更が必要となることや、学会参加を名目にした不正入国の発生が懸念されることから、実現は難しいと思われる。

→ 海外からの参加者について個々での対応は難しいと思われる。やはり協賛に入ってもらえるのではないか。

- ・ 栗原理事長より、2018年度大会は大幅に変更することから、新旧3委員長および2018年度副委員長で引き継ぎ・打ち合わせを行う予定である旨の報告があった。
- ・ 懇親会の参加費用については、実行委員会の裁量であることを確認した。また、費用が高くなる様であれば、参加費を高めを設定する、適宜他から補填することで対応することを確認した。

連合理事会・報告

1. JJSDの現状について

- ・ 青嶋編集委員長より、JJSDの現状について以下の通り報告および依頼があった。
 - 投稿から発刊までの流れについての体制、およびインパクトファクター取得に向けての戦略について説明がなされ、これまで19本の論文（理論6、計算機関係4、応用4、計量生物5）が投稿されており、その他に特集を複数企画中との報告があった。
 - Coordinating editor および associate editor は、自身の専門分野をシステムに登録することになっているが、未だ登録されていない方が多くあり、査読者の選定に支障をきたしている。該当者に登録を促してもらいたい旨の依頼がなされた。
 - 広報活動がまだ十分ではないと思われる。HP、バナー、メーリングリスト、学会会場でのチラシ配布等を通じて、統計6学会のジャーナルであることを広報してほしい旨の依頼があった。
- ・ 岩崎委員より、立ち上げから最初の2年間は誰でも無料で閲覧できるが、その後はトークン（読む権利）が無いと閲覧できない仕組みである旨の説明があった。それに係る費用等、各学会の負担については今後検討していく。

2. 科学研究費「研究成果公開促進費」の申請について

- ・ 栗原理事長より、JJSDに係る費用捻出のため科研費を申請中であり、また、申請は法人である必要があることから、日本統計学会から申請して頂いている旨の報告があった。

3. 月間「統計」への寄稿について

- ・ 栗原理事長より、2017年度統計関連学会連合大会の内容をまとめた記事を月間「統計」に寄稿し、

その原稿料については連合の収入に組み入れた旨の報告があった。

4. その他

- ・ 栗原理事長より、連合の会計状況について、収入は各学会からの会費（3万円×6学会）、連合大会からのwebサーバー使用料、月間「統計」の原稿料くらいしか無く、またその一方で、JJSD等の今後の事業に係る費用の問題や、シンフォニカへの業務委託費を十分に支払っていない状況である旨の説明がなされた。それに伴って以下の様な議論がなされ、引き続き検討することとなった。
 - 各学会からの会費の値上げについては、各学会の事情もあることから難しいと思われる。
 - 連合HPを利用したバナー収入を検討してはどうか。
 - 連合大会に対し、組織委員会の活動として、連合から毎年一定額を請求する方向で考える。
 - 組織委員会としての会計担当を置くことについて、（業務委託も含めて）の検討が必要と思われる。

連合理事会・議案

1. 統計関連学会連合の広報活動について

- ・ 栗原理事長より、現状では連合から6学会会員へ直接連絡する手段がないが、JJSDといった連合としての事業も増えてきていることもあり、各会員に対しどの様に広報活動が行えるか検討してほしい旨の依頼があった。

2. その他

- ・ 栗原理事長より、2019年度の統計関連学会連合大会は、竹村彰通実行委員長の下、滋賀大学で開催したい旨の提案があり、承認された。
- ・ 2020年度連合大会の開催地の選考については、栗原理事長に一任することが承認された。
- ・ 連合が他イベントを共催・後援・協賛することについて、人的・金銭的負担が発生しない場合に限り、基本的には理事会を通さず承認するというを確認した。併せて、これまでに次のイベントに共催・後援・協賛したことが報告された。
 - 日本品質管理学会 第7回 科学技術教育フォーラム（2017年12月26日 受諾）
 - 日本統計協会 第68回統計セミナー（2017年12月9日 受諾）
 - JST（科学技術振興機構）CREST・さきがけ 数学関係領域合同シンポジウム（2017年11月18日 受諾）
 - 公開シンポジウム「数学者と産業界の協働ケーススタディ」（2017年11月18日 受諾）
 - AIMaP チュートリアル「最適化理論の基礎と応用」（2017年11月18日 受諾）
 - 数学アドバンスイノベーションプラットフォーム キックオフミーティング（2017年7月6日 受諾）
- ・ 次回の理事会・組織委員会は、日程調整の上、4月に開催する。